

令和3年度 社会福祉法人 省我会 法人本部 事業計画（案）

(1) 評議員選任・解任委員会の開催

日時：未定 場所：新宿せいが子ども園

（議案）評議員の選任、他

(2) 定時評議員会の開催

日時：未定 場所：新宿せいが子ども園

（議案）理事・監事の選任、令和2年度計算書類及び財産目録の承認、社会福祉充
実計画変更の承認、他

(3) 理事会の開催

①5月（決算承認）②6月（新任理事による理事長選任）③10月（理事長による業
務執行報告）④12月（1次補正予算案）⑤3月（次年度事業計画・当初予算案）

場所：新宿せいが子ども園他

(4) 令和2年度事業報告及び決算報告の監事監査の開催

日時：未定 場所：新宿せいが子ども園 出席監事2名

(5) 研修への参加

東京都及び東京都社会福祉協議会・民間保育園協会等主催法人研修

(6) 海外施設視察研修補助事業

シンガポール等乳幼児教育施設研修 施設職員 若干名

令和3年度

省我保育園 事業計画書

社会福祉法人 省我会 省我保育園

令和3年度 基本理念に関する事業計画

1 令和3年度 運営の目標（事業計画の基本方針）

昨年、省我保育園は、創立40年を機に、大規模な改修工事を実施して2年が経過した。この環境にも慣れ、スムーズに進めてきている。その結果 大きな修繕や固定資産の心配もなくなり、保育の全体的計画の充実を図り、落ち着いて子ども達が主体的な生活が送れるように進めていきたい。また、前述のように新型コロナウイルスについて、運営には問題がないが、日々の保育について考えていかなければならないことは多い。しかし、まだまだ分からないことが多く予想をたてにくいのでその都度対応していく。以上を踏まえて次の内容を今年度の運営の目標とする。

① 職員の安定と職務内容の明確化（昨年度と同様）

保育士不足が解消されつつある。保育士不足の大きな問題点は、保育（福祉）に対する意識や意欲が低い職員が入り込んでしまうことである。その点で、不足の解消は重要なことである。これからは職員の充足ではなく、現在の職員が、保育（福祉）に対し、意欲と充実感を持って向き合うことができるようになっていきたい。そのために、各職員が自覚をもって、自分がなすべき職務を果たすべく、職務内容をわかりやすく整理していき、職場の安定を図っていく。

② 研修の充実と保育内容の再検討

職員の意識と意欲を高めるため、昨年度、十分にできなかった研修の充実を図っていく。株式会社の認可保育園が増え、保育園ランキングを意識し、子どもの成長にとってどうするべきか、ということより保護者の意向に沿った保育内容になりがちである。理念が揺れ動くことは、保育にとって大きな問題である。したがって、保護者におもねるのではなく、保護者への寄り添い、常に子どもの成長とは何かを考え、工夫し、保育内容を絶えず検討していく。

③ 衛生管理の徹底

新型コロナウイルスの感染は、まだまだ収まらない。したがって、絶えず情報をチェックし、職員の感染防止の徹底と、園内消毒の徹底を行う。子ども達の日々の生活に関しては、特別な制約を行わないが、今後、子どもへの感染が危惧されている変異型流行に備え、あらかじめ対応策を考えておく。また、昨年度と同じように一時閉園があった場合、家庭にいる子ども達への働きかけ（リモートによる呼びかけなど）の準備をしておく。

2 中期計画（令和2年度からの3年計画）

施設の大規模修繕は終了したので削除する。残りの一つの計画である職員の質の向上を引き続き、進めていく。また、『働き方改革』を独立させ、中期計画として取り組んでいく。

(1) 職員の質の向上と組織の充実、働き方の改善

保育士のキャリアアップ補助金を有効に活用し、保育士の質の向上と職員の組織の変更を考えていく。

同時に、書類作成などの簡素化に取り組むため、運営のソフトを導入し、書類作成の負担を軽くする工夫をする。

(2) 働き方改革の対応

保育園の職員は、その時間、その場所にいることも重要な仕事の内容である。また、職員定数もあるため、働き方改革を進めにくい職種なのでそういう条件を受け止めながら、職員の休憩、有給休暇取得を確実なものにするため、工夫を重ねていきたい。

3. 修繕と固定資産の購入

大規模修繕を行い、現在のところ、不都合が発生していないので、小さな修繕以外の修繕の予定はない。また固定資産の購入についても少額なもの以外、特に予定していない

令和3年度 事業計画(案)

せいがの森こども園

① 園児確保

◆0・1歳児クラスの定員(配分)の見直しと令和3年度の新入園児(乳児)

令和2年度は0歳児2名でのスタートとなった。コロナの影響で年度途中入園も滞ったが、1月に漸く定員12名に達することができた。0歳児入園の減少という大きな流れが続く中、安定的に入園児を確保することは大きな課題であるため、令和2年度中に、市と協議の上、0歳12名を9名、1歳15名を18名に変更し、令和3年度の園児募集を行った(0歳を3名減、1歳を3名増なので、0・1歳の合計人数に変更はなく、園全体の定員も変更はない)。その結果、令和3年度の年度当初の乳児の在籍は、0歳は定員9名に対して10名、1歳は18名、2歳は18名と定員を満たした形でのスタートとなった。

◆令和3年度の1号認定入園児

令和2年度末で1号認定児2人が卒園、1人が転居による退園となった。令和3年度の新入園児が獲得できなかったため、年度当初は1号認定2名でのスタートとなる。運営費的に1号認定児は0歳児とほぼ同等なので、1号認定児の減は運営面に大きく影響する。令和3年度は、当園の1号認定児の主力入園ルートである、子育て支援(令和2年度はコロナ対策で縮小)だけでなく、市窓口や地域でのPRなど、1号認定の獲得に注力する。

② 職員の退職と令和3年度の職員構成

◆令和2年度末をもって、常勤職員5名が退職。決定していた新卒採用は1名のみだったため急遽改めて募集を行ったが採用に至らず、派遣職員と非常勤職員の増強で補い、法人内他園からの協力も得て、新年度をスタートできる見込みとなった。安定した園運営と保育の質の向上のためには、職員の定着と育成が必要。令和3年度は、まずは正規職員と派遣職員のチームワークを高め、職場を落ち着かせることと、離職者を出さない職場風土づくりが急務となる。また、利便性の高い地域に保育士が流動しがちな状況下、採用の難しさは今後も続いていくことが予想されるが、派遣に頼らない安定した職員体制がつけられるよう、採用活動を継続して行っていく。

③ 園の施設整備

◆園庭の遊具・砂場の老朽化が激しく更新が必要となった。幼児クラスの家具の更新も令和2年度からの継続課題ではあるが、安全面を考えると、令和3年度の喫緊の課題は園庭遊具である。令和3年度は、以下の内容で園庭遊具・環境整備を計画する。

更新 ⇒ 園庭ハウス遊具・砂場・日よけ・ブランコ 1,800,000円

修理 ⇒ 園庭波型遊具・ブランコ 600,000円

その他の修繕としては、園舎2階の照明の修繕を計画。

修理 ⇒ 2階照明修理 500,000円

④ 運営体制

- ◆常勤16名(保育士14名、看護師1名、用務1名)。他は派遣・非常勤保育士等
チーム内、チーム間、現場と管理職層の連携を良くし、一人ひとりの個性を認め大切にしながら保育力・意欲・やりがいの向上をはかり、職員定着につなげていく。

⑤ 児童処遇

- ◆見守る保育の再確認～遊びのミュージアム
子どもが主体的に関われる良質な環境構成(人・物・空間)。
保育者の温かく応答的な関わりと適切なファシリテーション。
- ◆健康の増進
運動遊びと意識啓発で、自ら健康を創り出す力を育む。
地域資源(長池公園・せせらぎ緑道)を活用した散策活動。
- ◆健全な公共意識(パブリックアウェアネス)の醸成
他者を大切にし、認め、共存できる個を育成する。
言葉による伝え合いの経験を重ね、暴力事故を極小化していく。

⑥ 地域の子育て支援

- ◆子育てセンターわくわく(子育て広場事業型)の継続
課題はコロナ対策と運営規模の維持。地域の子育て家庭との連携を1号入園に結び付けられるよう工夫していく

⑦ 地域との連携

- ◆長池小学校との連携
- ◆長池公園運営法人「NPOフュージョン長池」とのコラボ企画による、幼児クラスの自然探検活動の深化。

以上

社会福祉法人省我会 新宿せいが子ども園
令和3年度 事業計画 (案)

【重点項目】

(1) 園児数 定員 177名

		定員	現員 (4月1日)
1号認定児 (3-5歳児、幼稚園機能)	3歳児	2名	2名
	4歳児	2名	2名
	5歳児	2名	2名
			計6名
2号認定児 (3-5歳児、保育園機能)	3歳児	30名	30名
	4歳児	30名	29名
	5歳児	30名	30名
			計 89名
3号認定児 (0-2歳児)	0歳児	21名	12名
	1歳児	30名	30名
	2歳児	30名	30名
			計 72名
			総計 167名

(2) 職員体制

園長 1名 副園長 2名 保育士 29名 保育補助 1名 看護師 1名
管理栄養士 1名 栄養士 2名 調理師 1名 児童心理士 1名 環境マイスタ
ー (用務) 1名 パート 2名 (一時&調理) 計 42名

(3) 修繕等工事計画他

1. 空調室外機騒音改善工事	100万円
2. 園庭人工芝清掃メンテナンス工事	100万円
	計 200万円

以 上

社会福祉法人省我会

千代田せいが保育園

令和3年度 事業の重点計画(概要)

(1) 令和3年度の概要

- (ア) 定員51名に対して4月は50名でスタートする予定。
- (イ) 施設設備の変更など大きな手直しはなし。
- (ウ) 職員の数は変わらず(常勤保育士1名退職・採用の予定)。
- (エ) 新型コロナ対策を昨年に続き継続する。
- (オ) 感染症・暑さ・台風・河川氾濫等の自然災害対策

(2) 4月園児数

- (ア) 3歳児(定員10名)2名の募集に対して公募なし。従って2歳児(定員8名)1名の募集に対して2名を受け入れた。
- (イ) 夏季などに希望があれば一時保育を実施する予定。

(3) 乳幼児教育法に則った保育と地域支援

- (ア) 乳児における集団の活用
- (イ) STEM 保育の充実
- (ウ) 「0号認定」制度に向けた各方面への啓発

(4) 研修の充実

- (ア) 千代田区の研修費を活用
- (イ) キャリアアップ研修

(5) 保護者支援・地域支援

- (ア) パパ先生ママ先生の保育体験 父親保育 入園前の睡眠講座
- (イ) 地域向け育児講座・出産前の家庭への保育所体験・小中高生の育児体験

(6) 施設・設備、備品購入

- (ア) 避難車の購入 15万円(機能強化推進費)
- (イ) 非常食等の備蓄整備スペース確保(千代田区への要望)